

...

認定療法士 特集

...

当院の認定療法士資格取得者にインタビューしてみました！



認定理学療法士
(脳卒中)



認定言語聴覚士
(摂食嚥下障害領域)



認定理学療法士
(運動器)

...

認定理学療法士 (脳卒中)

×



Q1. 認定療法士をとろうと思ったきっかけを教えてください。

A. 認定資格を取ろうと思った理由は3つあります。1つ目は、より良い治療を提供するために知識と技術を高めたいと思ったこと。2つ目は、資格取得後の活動を通して職場の教育環境をよりよくしたいと感じたこと。3つ目は、上司の認定療法士をはじめ、素晴らしい方が多く、自身もそうありたいと思ったからです。

Q2. 認定資格を取ってから、臨床でどんな変化がありましたか。

A. 資格取得後は、理学療法士協会での教育活動にかかる機会が大きく増えました。地区リーダー、研修会講師、症例報告会座長、学術大会準備委員長など、様々な役割を経験しています。資格取得時に掲げた目標のうち、2つは大きく前進していると実感しています。一方で、新たな出会いや経験を通して、まだまだ学びと挑戦が必要だと感じています。

...

×

Q3. 自分の専門分野で「やりがい」を感じる瞬間はどんなときですか。

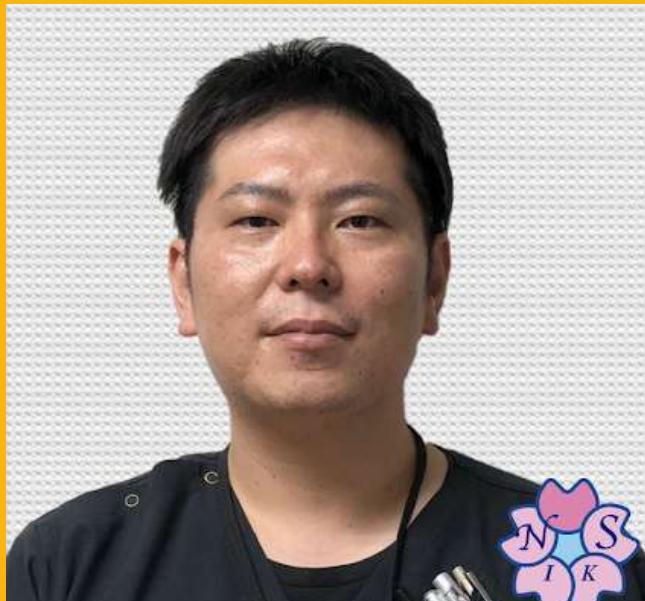
A. 私は、急性期の脳卒中リハビリに携わっています。治療や自然治癒、運動による変化を患者さんと一緒に支えられることにやりがいを感じています。後遺症が残る場合も、症状との向き合い方や生活づくりを支援できることが大切だと考えています。その過程すべてにかかわることが私のやりがいです。



Q4. 今後、取り組みたいこと、目指している理学療法士像はありますか。

A. 当院は、促通反復療法の認定施設となりました。今後も麻痺や後遺症に悩む患者様の治療に携わり、治療機会を広げていきたいと考えています。また、社会のニーズに応えられる理学療法士でありたいと思っています。チームとしてもその役割を果たせるように努めています。

... 認定言語聴覚士
(摂食嚥下障害領域)



Q1. 認定療法士をとろうと思ったきっかけを教えてください。

A. 自身が「食べる」ことが好きだからです。「食べる」と「話す」の関連は強く、「食べる」リハビリから「話す」リハビリにも繋げたいと思ったからです。

Q2. 認定資格を取ってから、臨床でどんな変化がありましたか。

A. 「食べる」ことは生きる喜びであり、命の危険に直結することもあります。リスク管理をした上で、どのようにしたら食べられるかを考えたりハビリを意識しています。今、食べられる瞬間を逃さないようにしていきたいです。



Q3. 自分の専門分野で「やりがい」を感じる瞬間はどんなときですか。

A. 食べられなかつた方が、少しでもたべれるようになつた瞬間。練習を重ねて、3食すべて経口で摂れるようになつた瞬間。その時に見られる、笑顔やうれし涙の瞬間。

Q4. 今後、取り組みたいこと、目指している言語聴覚士像はありますか。

A. 食のまち いちき串木野市に根ざした言語聴覚士を目指していきます。「食べる」で困っている地域の方の相談・評価・練習を一体的に行っていきたいです。

... 認定理学療法士
(運動器)



Q1. 認定療法士をとろうと思ったきっかけを教えてください。

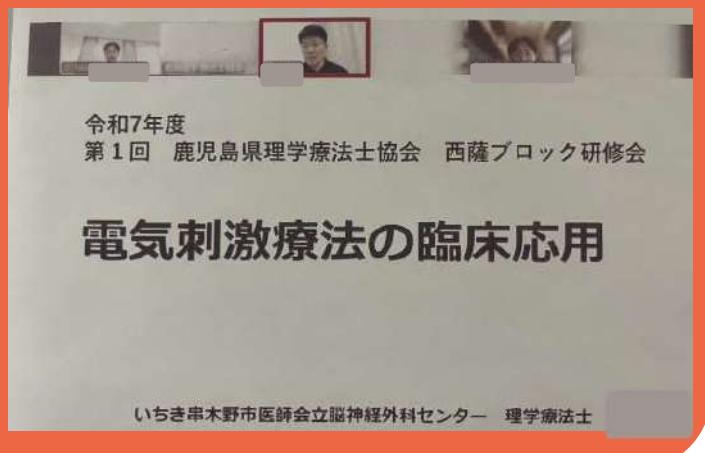
A. 前の病院では運動器の患者・利用者が多く、日常の臨床でも運動器が中心でした。その為、運動器の知識や技術をより深める必要性を感じており、どうせ学ぶなら運動器を専門として形にしたいという思いがありました。ちょうど生涯学習が切り替わるタイミングであったため、自分の専門性をきちんと示す良い機会だと考え、認定資格の取得をきめました。

Q2. 認定資格を取ってから、臨床でどんな変化がありましたか。

A. 当院では運動器分野の認定理学療法士は私1人しかいません。だからこそ運動器の専門家として他職種から相談されることが増えましたし、職員で骨折した方がいた際は声がかかるようになりました。脳卒中の分野でも運動器の視点を持つことで、より深い関わりができるようになりました

...

×



Q3. 自分の専門分野で「やりがい」を感じる瞬間はどんなときですか。

A. 認定を取得することで「得意分野」が「専門分野」として認められ、臨床や地域に貢献できる。自分だから出来ることが増えることこそ最大のやりがいだと感じています。

Q4. 今後、取り組みたいこと、目指している理学療法士像はありますか。

A. 地域に貢献できる理学療法士になることが私の将来像です。リハビリに限らず、地域の方々の健康づくりや生活支援など、自分にできることがあれば積極的に手をあげ、まずやってみる姿勢を大切にしています。一歩踏み出してトライし、その結果として地域の力になれる信じ、理学療法士の枠にとらわれずに地域のために行動していきたいと思います。